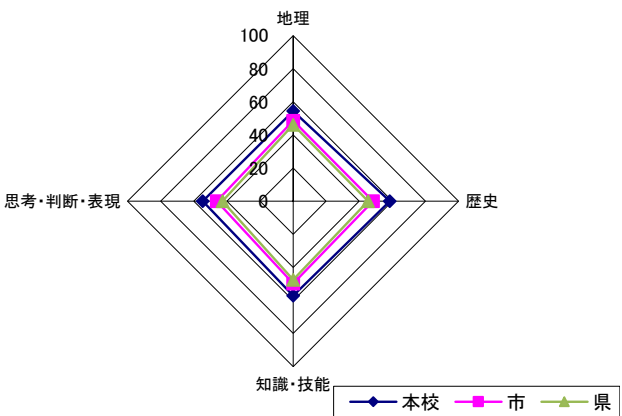


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	54.4	48.6	46.2
	歴史	58.5	48.3	45.3
観点	知識・技能	57.2	49.8	47.5
	思考・判断・表現	54.6	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○平均正答率は、県の平均より8.2ポイント、市の平均より5.8ポイント上回り、良好である。知識・技能と思考・判断・表現の両観点共に、ほぼすべての問題で市平均より正答率が上回り、良好な結果であった。 ○選択式だけでなく、短答式や記述式の問題の正答率も市平均をすべて上回っており良好である。特に原油の国際価格の変化の特徴やアフリカのモノカルチャー経済の課題について記述する問題の正答率が、市平均を大幅に上回っている。 ●東京とサンフランシスコの時差を問う問題、インドネシアの国土面積と排他的経済水域を資料から選ぶ問題、高山気候の雨温図の特色を問う問題は、市平均をやや下回るかほぼ同じであり、課題が見られる。いずれも基本的な知識があれば解ける問題であり、対策が必要である。 ●地理的分野は、歴史的分野に比べると正答率が低い傾向にあるので、さらなる学力向上を図る必要がある。	・基本的な内容の定着は見られるが、応用問題の対応にまだ課題が残る。資料を読み取り、自分の考えを文章として表現する学習活動を増やし、復習を効果的に行うことで、より深い思考力や表現力を培っていく。 ・地図やグラフ、資料の読み取り方については、読み取るポイントを授業で丁寧に指導するとともに、既習事項を生かして考えるように、授業で意識して指導する。また、自分の考えを文にしてまとめる活動を増やすことで、表現力を向上させていく。 ・地図と関連させて資料を読み取る力や複数の資料を読み取る力が大切になるので、読み取るポイントを授業で教えるなどして、グラフや地図を活用する思考力を育てる。また、地図帳を効果的に利用するようにする。 ・授業の導入で身近な社会に関する話題やニュースを取り入れるなどして、一般的な教養や知識を広げ、興味関心を高めることで、地理的分野に苦手意識を持たせず、主体的に学習に取り組む態度を向上させていく。
歴史	○平均正答率は、県の平均より13.2ポイント、市の平均より10.2ポイント上回り、大変良好である。知識・技能と思考・判断・表現の両観点共に、すべての問題で市平均より正答率が上回り、大変良好な結果であった。 ○選択式だけでなく、短答式や記述式の問題の正答率も市平均をすべて上回っており大変良好である。特に古代文明の特徴について記述する問題、弥生時代のムラについて資料を基に考察する問題、鎌倉幕府の支配の変化について複数の資料を関連付けて考察する問題の正答率が、市平均を大幅に上回っている。 ○複数の資料を関連付けて考える思考力や、考察したことを適切な短文にして表現する力が育っていると見える。	・今後も繰り返し授業の中で復習を取り入れ、各時代ごとの変化や特徴を捉える力を養っていく。 ・文献資料や地図資料の活用を広げ、歴史的事象のつながりや多角的な視野で物事を捉える見方を培っていく。 ・資料や年表を活用する習慣をつけさせることで、海外との関係や歴史の流れをつかめるようにする。 ・資料から既習事項を生かして考えるために、思考するポイントを教える授業を効果的に実施することで、資料を活用して思考する問題に対応する学力を伸ばしていく。 ・資料から思考し、記述する問題に対応するためには、読解力や表現力も必要になるので、自分の考えを記述させる授業を効果的に実践する。